

# DATA FILE



正方晶系

名前	VESUVIANITE (ベスピアナイト) / ベスブ石
化学組成	$Ca_{19}(Fe,Mn)(Al,Mg,Fe)_8Al_4(F,OH)_2(OH,F,O)_8(SiO_4)_{10}(Si_2O_7)_4$
色	白色、暗緑色、褐色、灰色、青色など
光沢	ガラス光沢、樹脂光沢
蛍光	なし
条痕	白色
劈開	不明瞭
断面	亜貝殻状、不規則
硬度	5 ~ 6.5
比重	3.3 ~ 3.4

せき

# ベスブ石

## VESUVIANITE

劈開は不明瞭で、ハンマーでたたくと亜貝殻状または不規則な断口を示す。

イタリアで産出したベスブ石。

イタリアのベスピオ山で発見されたことにちなんで鉱物名がつけられた。

素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕が残る。



結晶は表面に条線のある四角柱状が多いが、両錐状や微粒状、塊状の集合体でも産する。

方解石、灰ばんざくろ石、珪灰石などと共生する。

### 変成岩中から多く産出

1795年に独立種と認められたベスブ石は、主に接触変成作用を受けた石灰岩中にできるほか、ロディン岩や超苦鉄質岩にともなうカルシウムの多い変成岩中から産出する。日本ではスカルン鉱床で多く見られるが、スカルン中から産するベスブ石のなかにはざくろ石と似ているものがあるため、注意深い観察が必要。

なお、ベスブ石の結晶は白色または薄い緑色のものが多いが、暗緑色や褐色、灰色などでも生成し、ひすいに似た緑色で塊状のものは「カリフォルナイト」、微量に銅を含む淡い青色のものは「シプリン」という別名を持つ。また、かつては「アイドクレーヌ」とも呼ばれていたが、国際鉱物学連合によって、先に登録された英名の「ベスピアナイト」が優先権を認められた。

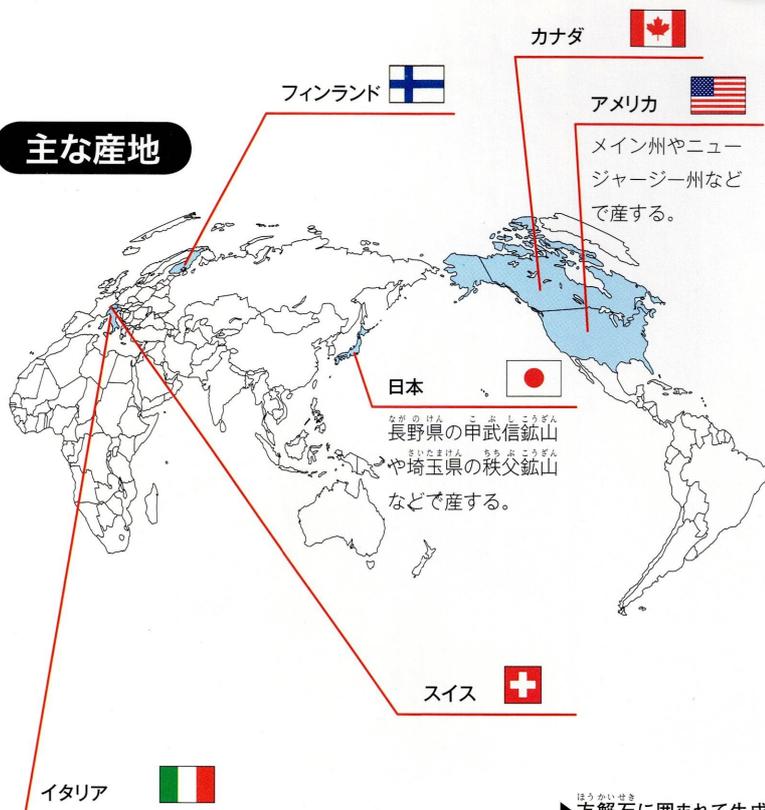


▲黒色で産出したベスブ石。イタリア産。

### さまざまな微量成分

基本的に金属元素カルシウムとアルミニウムのケイ酸塩鉱物であるベスブ石は、そのほかにマグネシウムや鉄などのさまざまな微量成分を含んでいる。また、ケイ素の一部がアルミニウムに置換したりフッ素を少量含んでいるものもあり、産地によってはアンチモン、ホウ素、セリウム、ネオジム、マンガン、亜鉛、鉛などを含有するものもある。

### 主な産地



▶方解石に囲まれて生成した褐色のベスブ石。